

FD NEWSLETTER

CONTENTS

- GMS学部の完成年度とFDの役割
グローバル・メディア・
スタディーズ学部長 齋藤 信男
- 反省と展望、今後の課題
グローバル・メディア・スタディーズ学部
各務 洋子
- GMS学部におけるFD活動
グローバル・メディア・スタディーズ学部
アッシュウェル、ティム
- 2009年度「学生による授業アンケート」(後期)集計結果
- 平成21年度「FD研修会」
- FD推進委員会の今後の活動予定
- 発行物のお知らせ
- 「平成22年度新規採用教員オリエンテーション」開催のお知らせ

GMS学部の完成年度とFDの役割


グローバル・メディア・スタディーズ学部長 齋藤 信男

GMS学部は、平成21年度で4年目を迎え、第一回の卒業生を送り出す時期となっている。その設立を計画し支援して下さった方々の努力のお蔭で今まで順調に進行してきた。駒澤大学におけるその位置づけ、意味づけはいろいろと議論出来るであろうが、いずれにしろ21世紀という世界あるいは日本の大きな曲がり角を迎える時代に発足した学部である。グローバルあるいは(デジタル)メディアといったキーワードが学際的、多重領域的な展開の中心になっているが、そこに学ぶ学生を如何に育て、有為な人材として世に送り出していくかという課題は簡単には解けない。

GMS学部のこの4年間は、本学の中で丁度FD活動が活発化してきた時期と重なった。本年度、アドミッションポリシー(入り口)、ディプロマポリシー(出口)、それらをつなぐカリキュラムポリシーを策定し、いわゆる学士力をきちんと定義し、その実現を目指そうという方針が本学で取られた。その学士力をつける教育を行う教員が必要な教育力を涵養するのがFD活動という事になる。

GMS学部のこの4年間では、当初からそのようなFDへの明確な意識を持っていたわけではないが、FD活動に対しては真剣に取り組んできた。授業アンケートに関しては、オープン化を支持する人たちが多く、アンケート結果の公開、その利用方法などについては、一歩先に進んでいた。本学部の英語教育では、多くの非常勤教員をお願いしているが、その評価を行う上でこの授業アンケートは大変役に立った。授業アンケートをオンライン化してネットワークや携帯電話で行う試みも徐々にふやした。アンケート結果の利用方法では、将来人事案件(昇格など)の参考資料の一つにしたい。また、公開授業は、設立当初から毎年若い教員を中心に参加してきた。以前は、終了後、先生方の中で感想を述べ議論をしていた様だが、とても意義のあることだろう。

GMS学部は、来年度からカリキュラムを修正するが、この内容を生かすのはFD活動にかかっている。今後も、気を引き締めて、教員の教育力を高め、学生の学士力の向上につなげていきたい。

 反省と展望、今後の課題

グローバル・メディア・スタディーズ学部

教授 各務 洋子

完成年度を迎えるにあたり、4年前に入学した1期生の感想を含めて、4年間の教育効果を振り返ってみたい。GMS学部のカリキュラムは、5つの特色をもっています。5つの特色とは、①外国人教員による専門教育、②実務家との共同講義、③留学単位を幅広く認定、④プロのクリエイターによる特別授業、⑤ Semester制を専門科目で導入であり、新しい取り組みであるが故に、どの項目も難問山積の中で、学部教員全員が一丸となり取り組んで参りました。

これらの5つの特色は、一重に学生本位であり、社会に出て現実に直面した学生達が、現代社会で力強く生き残り、世界に通用する人材になるための教育を提供することを目的としています。したがって、カリキュラムの基本は“実践的であること”です。グローバル化に直面せざるをえない学生達が、自信をもって世界中で活躍できることです。しかし、その実践力は、大学という教育現場におけるアカデミックな理論や考え方のフレームワークに根ざしたものでなければなりません。“理論”と“実践”の両立を探索するカリキュラムがGMSのこの4年間だったと言えるでしょう。

本稿では、その中でも学部の教員が専門分野の学問と、実践の現場とを繋ぎ、学生の就職活動においても大変好評である②の実務家との共同講義についてまとめます。本講義の目的は、専門分野をもつ教員が、当該分野において現場で働く実務家と、共同で講義を運営する形式を取ります。前期2講義、後期2講義、合計4種類の半期講義を提供して来ました。初年度を例に出しますと、①情報関連、②広告関連、③新聞関連、④通信関連の4種類の講座を1年間に提供しました。それぞれの講座に12名程度の外部の実務家が、1人ずつ、毎週講義に来られ、担当教員は毎週異なる実務家の方々とともに共同講義を提供しました。例えば、①情報関連の講座では、インターネット、ソフト制作などに関する企業の経営者や、技術者が講義をしました。②広告関連講座では、大手広告代理店と共同し、多様なメディアの担当者が15名来られ、半期を終えてはじめて、大手広告代理店の全貌がわかるという講座を作って戴きました。テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、新聞、クロスメディア、インタラクティブメディア等、

15事業部の担当者が、具体的なビジネスの現場を、映像を駆使してプレゼンテーションをしてくれました。③新聞関連では、四大新聞社の一社が、同様に、「新聞社の仕事は記事を書くだけではない。」というテーマで、論説委員、記者の方々から、広報、経理、人事、総務の方々まで、新聞社を構成する働く人々を目の当たりにすることができました。④通信関連では、学生が日常使っている携帯電話や、通信、ネット企業の経営者から、現場の方々まで、現代の最先端メディアの実情を解説して戴きました。このように、年間で教えてみますと、4講座に48名程度の実務家がGMS学部を訪れ、学生達と触れることができました。

学生達の反響は大変大きく、毎回の感想や、半期終了後のレポート課題の内容をまとめますと、「1つの広告会社の中に、これ程色々な仕事があるとは知らなかった。」「新聞社の中に、新聞記者以外の仕事があるとは知らなかった。」「記者の人が、残酷な事件など、大変な思いで取材して、新聞に仕上がるまでにあれ程の時間をかけているのかと思うと、凄い仕事だと思った。」「広告会社が夢だったけれど、CMを作るだけが仕事じゃないと思った。むしろCM担当にはならないこともあると思ってびっくりした。」というように、仕事に対する意識の高まりは明らかに見て取れます。そして、嬉しいことには、当時学んだ学生達が、これらの講座で学んだことがきっかけで、就職活動に取り組み、関連の企業に内定をもらったという学生が出たことです。

最後に付け加えたいことは、社会で現実に働く実務家たちに、「これから社会に出る学生に伝えたいことを一言」とお願いすると、「クリエイターこそ遅刻をするなよ。」「ハウレンソウは本当に大事だぞ。」といった非常に日常的な一言を残して下さり、それが学生達の日常を大きく変える一言になったということです。



GMS学部におけるFD活動

グローバル・メディア・スタディーズ学部

教授 アシュウェル、ティム

FD ニュースレター第15号では、苗村先生が2006年にGMS学部が設立されて以来施行されてきたFDに関わる手法について述べられていますが、ここでは、GMS学部の2009年度の成果、および、今後新たに実施されたFDに関わる取り組みについて報告し、最後にFDの主導権の所在に関して簡潔に論じたいと思います。

ウェブを利用した授業アンケート

GMS学部では2009年度も前年に引き続き、ウェブを利用したパイロット授業アンケートを行いました。このシステムは学生が携帯電話を用いて授業アンケートに答えることができるものです。このシステムにはいくつかの利点があります。従来の方法に比べ短時間で済みます。また、データは瞬時にデジタル化され、量的な結果として即座に教員にフィードバックすることができます。また、用紙も必要ありません。ひとつの問題点は、学生が個人的なコメントを書く際、携帯に打ち込むのを面倒であると感じる危険性があるということです。問題点がないわけではありませんが、このシステムおよび大学で用いられているムードを導入することにより、経費削減が見込めることを考慮すれば、回答用紙記入式の従来の授業アンケートのあり方を、大学全体で見直していく時期に来ているのではないかと思います。

専任教師の昇進について

2008年12月から2009年1月にかけて、GMS学部では大学院設立をめざし、数名の専任教員の昇進審査を行いました。大学院設立の申請を進めていくためには、数年後に昇進しうる専任教員の審査を、先に済ませておかなければならなかったためです。通常昇進審査は、論文などの業績の質や大学内外における貢献度などが基準となります。ただ、その他にも教授の質を審査に含めて評価すべきであるとの意見がGMS学部の英語教員から挙がったため、審査する際、英語専任に限り、授業観察を行いました。授業観察の前に観察者と授業計画について話し合いを持ち、終了後に自己・他者評価表をもとに

授業の反省を行いました。この評価表は観察者により作成され、標準化されたものです。結果は他資料とともに審査委員長に提出されました。この授業観察による評価方法は、GMS学部全体では正式に認められているものではありません。次回、昇進審査が行われる際に、この方法が価値あるFDの機会であることが認められることを願っています。授業観察を行うことにより観察者と観察される側に、ある種の信頼関係が生まれ、それが将来のよりよい関係の始まりになることを望んでいます。

英語非常勤講師授業観察

2009年春にはこの評価表を用い、新規採用の非常勤教員他数名に対して、授業観察を行いました。まず授業参観を行い、その後観察者と教員がそれぞれ記入した評価表を比較しながら授業改善について話し合いました。さらに2度目の授業参観を行い、授業の質が向上しているかフォローアップを行ったケースもあります。そのうちの1件においては、改善が見られなかったため、2010年4月以降の契約を更新しないこととなりました。また、採用してまだ早い時期にほとんどの非常勤教員がシラバス通りに授業を進めていることが確認できたという点でも前向きに評価できると思います。

FD勉強会

さらに今年度、GMS学部において、もうひとつの新しい取り組みが始まりました。FD推進部会主催の勉強会です。初回の勉強会は10月6日に行われ、7名のGMS学部の教員が「FDとは何か。」というテーマで議論をしました。初回の勉強会において、FDが教員教育であり、また大学教員として自己開発を目指すものであり、教授法改善を行っていくことを意味することを参加者間で確認しました。11月17日の第2回目のテーマは「初年次教育」でした。勉強会では、授業と研究の関連性について、またレベル差のある学生を教える際の注意点などについて意見交換を行いました。参加者全員が最大の課題として挙げたのが、学生のやる気(モチベーション)をいかに引き上げるかという問題でした。

私は勉強会の冒頭に、FDにおける「トップダウン」「ボトムアップ」について発表しましたが、この問題に関しては時間の関係上、十分な議論ができませんでした。私の主張は、

今の駒澤大学のFDはトップダウンによるものであり、FDの良さを十分に発揮させるためには、今後、ボトムアップの方式に変えていく必要があるというものです。前者は自発的なものではなく義務づけられたものであり、評価を目的として行われているところがあるのに対して、ボトムアップ方式は自発的、協同的な自己開発のための学習であり、それにより達成感を得ることができるものであるということです。発表を終えて実感したのは、FDの主導権が誰にあるべきかということです。それにより、FDを推進するためのプログラムの内容も大きく左右されますので、主導権の所在がFDプログラムの成功の鍵を握っているといえるでしょう。

この見解については、アメリカで実施されたいくつかの大規模なFD活動の調査の結果からも支持されるものです。Sorcellini等(2009)は、大学におけるFDの主導権は、2種類の対立する立場(①各教員②大学本部)に存在することが明らかになったと述べています。

勉強会を開催するに至った主たる理由は、FDが上からの押し付けではなく、自分たちが主導権をもって取り組んでいかなければならないものであるという認識を各教員にうながすことにあります。駒澤大学においては、FDを各教員が個人レベルでとらえ、積極的に取り組むようになるための方法をFD推進委員会が中心となって模索していくことが不可欠です。そうすることにより、各教員がFDが強制されたものではなく、自分たちの問題として前向きにとらえるようになるのではないかと思います。この点からいえば、駒澤大学が特別なわけではありません。アメリカのSorcinelli et al, 2006:148は、論文の中で、次のような大学教員の発言を取り上げています。「少なくとも我々のカレッジでは、FDは些細な綿毛みたいなものと見られている。結構な存在で、”politically correct(偏見や差別がなく、誰から見ても正しいこと)”だが、捨ててもいいものであると思われる。(途中略)しかしながらFDは大学本部および各教員にとって、強い発言力をもった教育上の頼みの綱のような役目を果たすものでなければならない。」

FD委員会が大学本部にまた所属学部にもFDの主導権の所在についての見解を伝えていかなければ、FDがまさに捨てられ

る綿毛のようなものになってしまう恐れがあります。大変難しい問題ですが、FDについて通常の会議、委員会などで報告するだけでなく、少人数の勉強会などを行うなどして、少しでも各教員がFDに関心を示し必要性を認識する機会を増やしていけば、大学の運営組織において強力な影響力を与える存在になっていくのではないのでしょうか。

2009年度「学生による授業アンケート」

(後期) 集計結果

2009年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。また、その結果については、科目分野ごとに、質問項目に基づき学部・学科の平均値を示した。

実施日	平成21年11月4日～11月10日
対象科目	1,801科目
対象者数	157,526人
実施科目数	1,797科目(99.7%)
回答数	73,954枚(46.9%)

【質問項目】

講義科目

- Q 1. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3. この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7. 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q 8. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q10. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q11. 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q12. 私語等の雑音がなく授業に集中できる環境が保たれていましたか。
- Q13. この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q14. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。

実験・実習科目

- Q 15. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
 - Q 16. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
 - Q 17. 担当教員による個別質問
 - Q 18. 担当教員による個別質問
 - Q 19. 担当教員による個別質問
 - Q 20. 担当教員による個別質問
- Q 1. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
 - Q 2. 授業に熱心に取り組みましたか。
 - Q 3. この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
 - Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
 - Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
 - Q 6. 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
 - Q 7. 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。
 - Q 8. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
 - Q 9. 教え方はわかりやすかったですか。
 - Q10. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
 - Q11. 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。
 - Q12. 私語等の雑音がなく授業に集中できる教場でしたか。
 - Q13. この授業で知的刺激を受けましたか。
 - Q14. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
 - Q15. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
 - Q16. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
 - Q17. 担当教員による個別質問
 - Q18. 担当教員による個別質問
 - Q19. 担当教員による個別質問
 - Q20. 担当教員による個別質問

語学科目

- Q 1. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3. この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7. 補助教材の視聴覚資料（カセット、ビデオ等）を効果的に取り入れていましたか。
- Q 8. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q10. 発音・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q11. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q12. この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q13. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q14. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q15. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q16. 担当教員による個別質問
- Q17. 担当教員による個別質問
- Q18. 担当教員による個別質問
- Q19. 担当教員による個別質問

保健体育実技科目

- Q 1. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2. 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q 3. この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 8. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 9. 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
- Q10. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q11. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q12. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q13. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q14. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q15. 担当教員による個別質問
- Q16. 担当教員による個別質問
- Q17. 担当教員による個別質問
- Q18. 担当教員による個別質問

個別項目についての学科・専攻別平均値

表1-1～表4-2は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、担当教員による個別質問の項目については掲載していない。また、有効回答が2名以上あった学部・学科のみ掲載した。

表1-1 講義科目

(学部)(学科)(専攻)	(仏教)(禪)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(英米文)	(文)(地理)(地域文化研究)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)	(文)(歴史)(日本史学)	(文)(歴史)(外国史学)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(社会)(社会学)	(文)(社会)(社会福祉学)	(文)(心理)
Q01	3.4	3.4	3.4	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5	3.5	3.3	2.9	3.3
Q02	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4	3.5	3.3	3.5	3.4
Q03	1.6	1.5	1.3	1.5	1.3	1.4	1.5	1.3	1.4	1.3	1.2	1.4	1.2
Q04	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1	3.2	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2
Q05	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.3	3.5	3.3	3.3	3.4	3.4	3.5
Q06	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8	3.6	3.6	3.8
Q07	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8
Q08	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1
Q09	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5
Q10	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.6	3.5	3.5	3.7	3.6
Q11	3.3	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.4	3.4
Q12	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.7	3.9
Q13	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.5	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
Q14	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.7	3.7
Q15	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	4.1
Q16	4.0	4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.2
有効回答数	997	1,954	3,041	2,339	1,303	1,196	663	1,340	1,247	720	886	1,613	1,631

表1-2 講義科目

(学部) (学科) (専攻)	(経済) (経済(A))	(経済) (経済(B))	(経済) (商)	(経済) (現代応用経済)	(法) (法律A)	(法) (法律B)	(法) (政治)	(経営) (経営(A))	(経営) (経営(B))	(経営) (市場戦略)	(医療健康科) (診療放射線 技術科)	(GMS) (GM)
Q01	3.4	3.5	3.4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.2	2.6	3.3
Q02	3.5	3.6	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.2	3.6
Q03	1.5	1.6	1.5	1.7	1.5	1.6	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.7
Q04	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.4	3.3	3.3
Q05	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5
Q06	3.6	3.9	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.8	3.6	3.4	3.8
Q07	3.5	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.5	3.6	3.8	3.6	3.5	3.9
Q08	3.8	4.1	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	3.7	3.6	4.0
Q09	3.4	3.7	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.7	3.4	3.3	3.7
Q10	3.5	3.8	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.7	3.5	3.3	3.7
Q11	3.2	3.6	3.4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.5	3.3	3.2	3.6
Q12	3.6	4.0	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	3.2	3.4	3.8
Q13	3.5	3.8	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.7	3.4	3.4	3.7
Q14	3.5	3.8	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.7	3.5	3.3	3.7
Q15	3.9	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.7	4.1
Q16	4.0	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.0	4.0	4.1	4.0	3.7	4.2
有効回答数	5,980	226	3,498	1,789	5,031	1,867	4,223	5,402	813	1,560	2,081	3,049

表2-1 実験・実習科目

(学部) (学科) (専攻)	(仏教) (禪)	(仏教) (仏教)	(文) (国文)	(文) (地理) (地域文化研究)	(文) (地理) (地域環境研究)	(文) (心理)
Q01	3.5	3.2	3.7	2.9	3.2	2.7
Q02	3.6	3.2	3.7	3.5	4.0	4.4
Q03	1.4	1.3	1.2	2.3	1.9	2.7
Q04	3.0	3.0	3.0	3.5	3.2	3.8
Q05	2.8	2.9	3.3	3.6	3.5	4.1
Q06	3.4	3.7	3.8	3.4	3.9	3.7
Q07	3.8	4.0	3.9	3.3	4.0	4.2
Q08	4.1	4.3	3.8	3.4	4.0	4.3
Q09	3.8	3.6	3.6	2.9	3.7	4.0
Q10	3.9	3.9	3.3	3.2	3.9	4.1
Q11	3.5	3.5	3.4	3.1	3.6	3.8
Q12	2.6	2.7	3.9	3.7	4.0	4.2
Q13	3.7	3.7	3.8	3.1	3.8	4.0
Q14	3.6	3.8	3.8	3.1	3.9	3.7
Q15	3.1	3.3	3.6	3.8	4.2	4.2
Q16	2.8	2.6	3.7	3.9	4.0	4.4
有効回答数	17	35	36	51	63	25

表3-1 語学科目

(学部)(学科)(専攻)	(仏教)(禪)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(英米文)	(文)(地理)(地域文化研究)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)	(文)(歴史)(日本史学)	(文)(歴史)(外国史学)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(社会)(社会学)	(文)(社会)(社会福祉学)	(文)(心理)
Q01	3.1	3.0	3.1	3.3	3.0	3.2	3.2	2.9	3.2	3.1	2.7	2.7	2.8
Q02	3.5	3.4	3.6	3.6	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.7	3.6
Q03	1.9	1.7	1.7	1.6	1.6	1.8	1.7	1.7	1.8	1.6	1.6	1.7	1.6
Q04	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.3	3.1
Q05	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.6	3.3
Q06	3.7	3.6	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7
Q07	3.5	3.4	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.2	3.3	3.5	3.7
Q08	3.8	3.8	4.0	3.9	3.9	4.1	4.0	3.9	4.0	3.7	3.9	4.0	4.0
Q09	3.5	3.4	3.7	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.2	3.5	3.7	3.6
Q10	3.5	3.5	3.7	3.6	3.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.2	3.4	3.7	3.5
Q11	3.8	3.9	3.9	3.9	3.6	3.8	3.8	3.7	4.0	3.5	3.6	3.9	3.9
Q12	3.5	3.4	3.6	3.7	3.4	3.7	3.5	3.4	3.6	3.3	3.5	3.6	3.6
Q13	3.6	3.5	3.7	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.7	3.3	3.6	3.7	3.7
Q14	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	3.8	3.9	4.0	4.0
Q15	4.0	4.1	4.2	4.2	4.0	4.3	4.2	4.3	4.1	4.0	4.0	4.2	4.2
有効回答数	326	628	664	1,310	367	210	111	325	320	161	299	254	392

表3-2 語学科目

(学部)(学科)(専攻)	(経済)(経済A)	(経済)(経済B)	(経済)(商)	(経済)(現代応用経済)	(法)(法律A)	(法)(法律B)	(法)(政治)	(経営)(経営A)	(経営)(経営B)	(経営)(市場戦略)	(医療健康科)(診療放射線技術科)	(GMS)(GM)
Q01	3.2	3.7	3.2	3.2	3.0	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1	2.4	3.7
Q02	3.5	3.5	3.6	3.6	3.4	3.5	3.5	3.6	3.2	3.5	3.3	4.0
Q03	1.8	2.3	1.8	1.9	1.7	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.5	1.7
Q04	3.2	3.3	3.2	3.3	3.1	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	2.9	3.3
Q05	3.3	3.4	3.3	3.4	3.2	3.0	3.3	3.2	3.6	3.3	2.9	3.3
Q06	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8	3.6	3.3	3.9
Q07	3.5	3.2	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	2.6	3.4	3.6	3.9
Q08	3.8	3.4	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.7	3.4	4.3
Q09	3.4	3.2	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.3	3.4	3.3	4.0
Q10	3.5	3.3	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.3	4.0
Q11	3.7	3.9	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	4.1	3.6	3.4	4.2
Q12	3.4	3.3	3.5	3.6	3.4	3.4	3.5	3.4	3.0	3.3	3.1	4.0
Q13	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	4.1
Q14	3.8	3.8	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1	3.8	3.5	4.2
Q15	4.1	3.9	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.0	3.7	4.4
有効回答数	1,374	13	885	445	1,510	355	979	1,537	21	614	182	179

表4—1 保健体育実技科目

(学部)(学科)(専攻)	(仏教)(禪)	(仏教)(仏教)	(文)(国文)	(文)(英米文)	(文)(地理)(地域文化研究)	(文)(地理)(地域環境研究)	(文)(歴史)	(文)(歴史)(日本史学)	(文)(歴史)(外国史学)	(文)(歴史)(考古学)	(文)(社会)(社会学)	(文)(社会)(社会福祉学)	(文)(心理)
Q01	3.4	3.5	3.1	3.1	2.9	3.5	3.6	3.0	3.6	3.4	2.7	2.8	3.4
Q02	4.3	4.3	4.5	4.2	3.8	4.3	4.0	3.8	4.3	3.8	4.0	4.2	4.6
Q03	1.6	1.5	1.4	1.2	1.4	1.4	1.0	1.1	1.1	1.4	1.3	1.5	1.5
Q04	3.2	3.1	3.2	3.0	3.2	3.2	3.4	3.0	3.1	3.0	3.1	3.2	3.3
Q05	3.3	3.1	3.5	3.1	3.2	3.5	3.6	3.3	3.6	3.4	3.2	3.4	3.2
Q06	4.1	4.2	4.2	3.9	3.7	4.2	4.0	3.6	4.1	3.8	3.5	4.0	4.2
Q07	4.2	4.4	4.6	4.2	3.9	4.5	4.2	4.1	4.4	4.2	4.2	4.5	4.7
Q08	4.2	4.2	4.5	4.1	3.7	3.9	4.0	3.7	4.1	3.6	3.7	4.3	4.3
Q09	4.3	4.2	4.5	4.1	3.7	4.2	4.2	4.1	4.3	3.8	4.0	4.1	4.6
Q10	3.8	4.2	4.3	4.2	3.6	3.7	3.6	3.7	3.9	3.6	3.9	4.2	4.3
Q11	4.1	4.2	4.1	4.1	3.6	3.9	3.8	3.0	3.8	3.6	3.7	4.0	4.5
Q12	4.4	4.3	4.3	4.2	3.8	4.2	4.2	3.3	4.3	3.6	3.7	4.2	4.7
Q13	4.3	4.1	4.6	4.2	4.0	4.2	3.8	4.3	4.6	4.0	4.1	4.5	4.8
Q14	4.2	4.3	4.7	4.5	4.1	4.5	4.0	4.4	4.4	4.2	4.2	4.5	4.8
有効回答数	24	35	35	50	33	20	5	19	17	5	31	31	12

表4-2 保健体育実技科目

(学部)(学科)(専攻)	(経済)(経済(A))	(経済)(商)	(経済)(現代応用経済)	(法)(法律A)	(法)(政治)	(経営)(経営(A))	(経営)(市場戦略)	(医療健康科)(診療放射線技術科)	(GMS)(GM)
Q01	3.5	3.4	3.8	3.7	3.4	3.3	4.0	2.5	3.1
Q02	4.4	4.2	4.5	4.3	4.2	4.2	4.3	3.8	4.0
Q03	1.9	1.8	1.5	1.6	1.2	1.9	1.8	1.4	1.5
Q04	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2	3.1	3.0	2.9
Q05	3.3	3.1	3.3	2.9	2.8	3.2	3.2	3.1	3.0
Q06	4.0	4.0	4.3	4.1	3.8	3.8	4.2	3.7	3.6
Q07	4.4	4.2	4.6	4.2	4.3	4.1	4.0	3.8	3.9
Q08	4.1	4.1	4.4	4.0	3.9	3.8	4.2	3.5	3.8
Q09	4.0	4.2	4.1	3.8	3.9	3.8	3.9	3.5	3.8
Q10	4.2	4.2	4.5	3.8	4.1	3.9	3.8	3.5	3.7
Q11	4.2	4.0	4.7	4.2	4.2	4.0	4.0	3.7	4.0
Q12	4.3	4.0	4.7	4.3	4.3	4.0	4.2	3.9	4.0
Q13	4.3	4.2	4.5	4.0	4.2	3.9	4.1	3.7	3.9
Q14	4.3	4.4	4.3	4.2	4.3	4.1	4.0	3.4	3.8
有効回答数	51	66	13	32	31	95	9	27	34

平成21年度「FD研修会」

駒澤大学FD推進委員会では、さまざまなFD活動を行っています。その一環としてFD研修会を毎年実施していますが、今年度からの検討課題である初年次教育について、同志社大学教育開発センター所長の職にあり、また初年次教育学会会長でもある山田礼子先生をお招きし、次のとおり開催しました。

日 時：平成21年12月10日（木）

午後4時20分～午後6時

場 所：中央講堂

講 師：同志社大学社会学部教授、教育開発センター所長

山田 礼子先生

演 題：「初年次教育の動向と評価」

(概要)

初年次教育が現在までどのように発展してきたかを2001年と2007年に実施した調査で比較しながら、検討します。その際、2001年と2007年の間で、初年次教育の普及が進展してきているか、初年次教育の定義が現在どのようになされているかも含めて提示します。



(講師：同志社大学社会学部教授 山田礼子先生)

日本における初年次教育は、大学がより教育を重視する場へと変革させるような政策の存在や学生の変容などを背景として、その草分けであるアメリカを凌駕する勢いで急速な広がりを見せているようです。しかしながら、その概念はそれほど整理されておらず、教員の認識もまだ不十分であり、教育上の効果が不透明であるのが現状のようです。

このような状況を踏まえ、初年次教育は学士課程教育の一環として位置づけて次年次（2年次・3年次・4年次）へと継続すること、日本の大学特性に合ったなおかつ各大学独自のものにすることが重要であると指摘されました。

このことを裏付けるデータとして、2001年度と2007年度に実施された初年次教育調査資料を基に説明がなされました。その実施率は2001年では理系・社会系学部でやや高かったものの、2007年になると学部系統に関係なく拡大普遍化しており、初年次教育が定着していることが報告されました。そして、実施状況からスタディ・スキル系（レポートの書き方や文献の探し方等）の教育だけでなく、チューデント・スキル系（大学生に求められる一般常識や態度等）の教育や自校教育などの領域をバランスよく組み入れることの重要性が説かれました。

また、初年次教育の評価としてその実施校のうち85%が教育効果を実感したとの回答をしていますが、アウトカム・アセスメントの一部として学生調査を利用した初年次評価（同志社大学の事例）からは、初年次教育で完結してしまうため2年次に継続されない等、初年次だけでの評価では不十分であることが報告されました。

今後の課題として、上級学年へとつながる教育プログラムを実施・改善し、評価結果は必ず公表、フィードバックする、PDCA（Plan：計画 - Do：実行 - Check：評価 - Act：改善）を常態化することが重要であると説かれました。

山田先生の講演内容は、本学におけるFD活動の在り方を見直すうえで貴重なものと思われま。



FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成21年度第4回FD推進委員会及び平成21年度第10回FD推進委員会小委員会開催

平成22年3月16日(火)

- ※ FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

発行物のお知らせ

2009年度「FD活動報告書」・ 2009年度「学生による授業アンケート報告書」

2009年度のFD活動内容・FDNEWSLETTERをまとめた『FD活動報告書』と2009年度の授業アンケートの概要・学科別項目別平均値等を掲載した『学生による授業アンケート報告書』を作成しました。

講師控室にて各報告書を配付しておりますので、ご自由にお持ちください。



『駒澤大学FDハンドブック』

駒澤大学FD推進委員会では、FD推進委員会小委員会を編集担当とし、FD推進活動の一環として『駒澤大学FDハンドブックーよりよい教育のためにー』を作成しました。

本ハンドブックは、教育支援の手引きである基本編と授業改善の事例を集めた実践編で構成されています。

講師控室にて本ハンドブックを配付しておりますので、ご自由にお持ちください。今後の教育活動にご活用いただければ幸いです。



【Contents】

はじめに

I. FDとは

II. 基本編〔教育支援のてびき〕

1. シラバス
2. 授業について
3. 授業支援ツール
4. 試験について
5. 成績評価について
6. 「学生による授業アンケート」について
7. 授業の振り返り
8. 授業上での配慮

III. 実践編〔授業改善のくふう〕

おわりに

「平成22年度新規採用教員オリエンテーション」 の開催のお知らせ

昨年度まで開催していた「新規採用非常勤教員オリエンテーション」を、平成22年度から、新規採用の専任教員も対象にした「平成22年度新規採用教員オリエンテーション」として、平成22年4月1日（木）に本部棟中央講堂にて開催いたします。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。



(昨年度のオリエンテーションの様子)

編集後記

『FD NEWSLETTER』第22号をお届けいたします。

本号では、GMS 学部を特集させて戴きました。GMS 学部が創設されて早4年目となり、この3月には一期生が桜の花に見送られて社会に巣立つことになりました。ひとつの節目として、GMS 学部長齋藤信男先生や各務洋子先生にグローバル・メディア・スタディーズ学部の設立から4年間を振り返っていただき、GMS 学部の取り組みをどのようになされてきたか、それぞれのお立場から論考を頂戴し、アシュウェル、ティム先生にはFD活動の具体的な取り組み方やFDの主導権について貴重な論考を寄せていただきました。ご寄稿くださいました先生方に厚くお礼申し上げます。

また、平成21年11月上旬に実施されました、2009年度「学生による授業アンケート」（後期）の集計結果を掲載しております。これらのアンケート結果を踏まえて、先生方の授業や、学科・学部等の組織的な改善のためにご参考にしていただければ幸いです。

FD活動の一環である平成21年度「FD研修会」が、同志社大学教授、同大学の教育開発センター所長でもある山田礼子先生をお招きし、12月10日に「初年次教育の動向と評価」という演題でお話を賜りました。その概要を紹介しておきます。初年次教育につきましては、本学FD推進委員会の今年度検討課題でもあり、今後FD活動を具体的に推し進めていくために役立つのではないのでしょうか。

最後になりましたが、『駒澤大学FDハンドブッカーよりよい教育のためにー』を作成しましたので、是非教育現場に活かして頂けますれば嬉しい限りです。

(田中 保・下谷内 勝利)

【タイトル横の写真は、昨年度の卒業式の風景】

FD NEWSLETTER Mar. 2010 第22号

発行日：2010年3月15日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9125 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)